

平成22年4月1日

平成22年度 コンビナート連携石油安定供給対策事業（補助事業）  
の選定結果について

石油コンビナート高度統合運営技術研究組合  
(RING)

石油コンビナート高度統合運営技術研究組合は、このたび経済産業省からの補助金に係る平成22年度「コンビナート連携石油安定供給対策事業」について、補助金交付対象となる事業を選定しました。公募期間中（平成22年1月19日から2月16日まで）に応募があった事業を対象として、組合内に設置した学識経験者等の有識者からなる審査委員会の厳正な評価及び審査を経て決定したものです。

詳細は、下記のとおりです。

記

1. 事業概要

コンビナート連携により、石油精製業を中心とする連携設備の効果的設置による拡大融合を促進して製油所の競争力を強化するとともに、石油資源の有効活用を図り原油処理量を減らすことを通じ、エネルギーセキュリティを確保するための事業について必要経費を補助します。

(1) 対象事業と実施期間

- ・対象事業：原油処理量の削減、製油所における主要製品の製造コストの削減等、各地区石油コンビナートの特長ある展開を目指す事業
- ・実施期間：平成22年度の単年度事業、又は複数年度事業

(2) 対象事業者

石油精製業同士、又は石油精製業と連携した業種で構成する複数事業者を対象

(3) 補助率

補助対象経費の1/2を上限として補助

## 2. 補助対象事業の選定

審査委員会において、応募書類を評価項目に基づいて審査し、補助対象事業を選定しました。なお、審査に当たって、必要に応じて応募事業者への直接の聴取や現地調査を実施しました。

### (1) 審査委員会メンバー

委員長 橘川 武郎 一橋大学大学院 商学研究科 教授  
 委員 菊地 英一 早稲田大学理工学術院 応用化学科 教授  
 委員 及川 洋 経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部 石油精製備蓄課長

### (2) 審査に係る評価項目

以下の評価項目に基づいて、審査しました。

区分	評価項目	評価基準	
		基礎点	加 点
1. 政策的意義	補助事業目的との合致	応募事業が補助事業目的、趣旨に合致している	石油安定供給、特長あるコンビナートの展開等への貢献度
2. 事業内容	効果：原油処理削減量	原油処理量の削減が見込まれる	原油処理削減量の大きさ
	効果：単位事業費当たりの原油処理削減量	単位当たりの原油処理削減量が算出できる	単位事業費当たり削減量の大きさ
	効果：製造コスト低減率	製造コストの低減が見込まれる	製造コスト低減率の大きさ
	費用対効果	費用対効果が算出されている	単位事業費当たり製造コスト低減額（付加価値向上額）の大きさ
	投資回収の適正性	—	適正な投資回収と補助金の効果
	CO2排出削減量	—	CO2排出削減量の大きさ
	工事計画の確実性	工事計画が示されている	工事計画の妥当性
3. 将来性	将来像の明確化	将来像が示されている	将来像の明確さ及び目標の高さ
	ロードマップの策定	ロードマップが策定されている	実現の可能性の高さ
4. 経営方針	応募事業の位置付け	経営方針において、応募事業の位置づけが明確である	経営方針における重要度の高さ
5. 地域説明・理解・協力	説明・理解・協力	地方自治体等で説明し理解が得られている	地域の理解・協力度合い

### 3. 補助対象事業の選定結果

今回、予算の範囲内において以下の2事業が選定されました。これらの事業は、コンビナート連携により、石油精製業を中心とする連携設備の効果的設置を行うことで、石油資源の高度利用を図り原油処理量を減らすことを通じ、エネルギーセキュリティを確保するとともにコンビナートの競争力強化に寄与するものです。

平成22年度のコンビナート連携事業の補助金予算は、29.6億円（業務管理費を含む。）です。当年度は、平成21年度に開始した事業に加えて、今回選定された事業が実施されることとなります。

番号	事業の名称 事業者名、事業期間《実施場所》	実施内容
1	コンビナートLNG冷水活用連携事業 ・出光興産(株)、知多エル・エヌ・ジー(株) ・平成22～24年度 《愛知県 知多地区》	知多LNG事業所でLNG気化時に発生した冷水を出光興産愛知製油所へ供給する。製油所では、この冷水を装置で活用することにより、設備の冷却効率の向上、蒸留分離工程における分離性能向上による製品回収率の向上及び重油接触分解装置の重油分解率向上が可能となり、原油処理量の削減、製造コスト低減を図ることができる。
2	コンビナート高度統合生産連携事業 ・新日本石油精製(株)、(株)ジャパンエナジー、三菱化学(株)、旭化成ケミカルズ(株) ・平成22～25年度 《岡山県 水島地区》	水島港を隔てた製油所と石化事業所間でコンビナートの統合体運営による高効率化・高付加価値化を目指し、LPGから自家燃料用重油まで多くの留分を相互に融通。重質油分解～石化製品までの幅広い需要変化に対応する設備の有効活用及び原料・燃料多様化による安定生産体制を確立するための連携設備の設置により、原油処理量の削減、製造コストの低減を図ることができる。

#### 4. 総評

本事業は公募を対象とするものであり、補助対象事業者の選定にあたっては、公平性・透明性を基本として審査を行いました。

審査委員会では、前述の評価項目に基づき審査を行いました。選定された全ての事業について、この評価項目を満足しており、目的とする石油資源の高度利用を図り原油処理量を減らすことを通じ、エネルギーセキュリティを確保するとともにコンビナートの競争力強化に寄与することを確認しました。

特記事項は、以下のとおりです。

- ① コンビナート連携事業は、エネルギーセキュリティの確保及びコンビナート競争力強化への効果が確実に期待できるものを優先して選定しています。  
選定された補助対象事業は、いずれも連携設備の設置が完成後、直ちに原油処理量の削減効果を生み出すこととなります。また、コンビナート連携設備の設置に関する計画内容が明確であり、将来像やロードマップが確実に策定されております。
- ② 知多地区「コンビナートLNG冷水活用連携事業」は、石油・石化のみならず石油・ガス産業間での新たな異業種連携により生産効率を向上させ、特長あるコンビナートへの画期的な取組みとなる事業を行うものです。水島地区「コンビナート高度統合生産連携事業」は、コンビナート内の石油・石化設備の有効活用や原料・燃料の多様化をダイナミックに展開する等、高度に統合・一体運営を更に推進することによって、高効率化、高付加価値化を図っていくものです。
- ③ 2つの事業は、連携設備を設置するとともに既存設備を有効活用して重油留分の白油化を図ります。原油処理削減量の総量は、約38万kl/年と大きな効果が見込まれています。
- ④ 我が国で余剰傾向にあり輸出せざるを得ない重質油の活用や設備の効率的活用、異業種との連携に関する取組みは、今後、各地区の特長あるコンビナート形成にも波及し、高効率生産への転換等による地球温暖化防止や地域の豊かさにも貢献できると考えています。

今後、選定された事業が、各事業者において着実かつ効率的に遂行され、目標とする効果が確実に達成されることを確信しています。

また、コンビナート連携のこのような取組みが、我が国の各地区においても数多く起案され、さらにエネルギーセキュリティを確保するとともにコンビナートの競争力強化に寄与していくことを大いに期待するものです。

以上